

学位論文審査の要旨

学位申請者	中村 雪子 【ジェンダー学際研究専攻 平成18年度生】 (平成27年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	開発政策としての「女性酪農協同組合」をめぐるポリティクスとエージェンシー：インド、ラージャスターン州を事例に	<p>中村雪子さんは、本学博士前期課程ジェンダー社会科学専攻、開発・ジェンダー論コースを修了（主査は伊藤るり教授）後、2006年度に本学ジェンダー学際研究専攻に進学（伊藤教授転出後の主指導教員は石塚道子教授）、2014年度に単位取得退学した。課程博士に準ずる論文博士の期限となる昨年度の3月に論文審査を申請、審査委員会を設置した。</p> <p>中村さんの研究テーマは、インドの乾燥地帯ラージャスターン州の女性酪農協同組合である。2000年に卒業研究（東京外国語大学、ヒンディー語学科）の調査で訪問した同州、ジャイプル県を調査地として、12回に及ぶ現地のフィールドワークを重ね、19年間研究を継続してきた。</p> <p>2018年4月9日に開催された第1回の審査委員会では、テーマの意義は評価されたが、エージェンシーなどの基本概念の不十分さと、フィールドワークに基づく記述の薄さが指摘された。2018年10月9日の第2回審査委員会では、構成の変更を含め大幅な改稿がなされたことが認められたが、記述の量や結論には物足りなさが残った。2019年2月19日の第3回審査委員会では、現地調査の成果を示すオリジナルな地図や写真が多数加えられ分厚い記述となり、フィールドのリアリティの上に、前半部分の理論研究が活かされる論文となったことが高く評価された。</p> <p>3月1日に開催された公開発表会では、中村さんは、新自由主義化が進むインドにおける女性酪農協同組合が、「良き開発主体」としての女性の動員や、既存のローカルな社会の権力関係の強化・再構築といった問題を孕み、女性のエージェンシーという視点からの一義的な評価は困難であるとしながらも、「状況づけられた主体」として関係性の中で生きる女性たちのミクロレベルの実践とそれに伴う社会構造の変化の兆しも主張した。質疑応答では、女性のエンパワーメントの意味や、この研究を開発とジェンダー研究の潮流にどう位置付けるかなどについて、活発な議論が交わされたが、的確な応答がなされた。</p> <p>中村さんの論文は、観念に傾きがちな開発とジェンダーの議論を、19年間のフィールドワークの蓄積と現地社会の変化の上に位置づけ、地域研究者の立場性も含めその複雑さを読み解いた点で稀有な研究であり、高いオリジナリティが認められる。博士（社会科学）／Ph. D. in Gender and South Asian Studies の学位にふさわしい研究と評価できる。</p>
審査委員	(主査) 教授 熊谷 圭知	
	教授 棚橋 訓	
	教授 小林 誠	
	教授 水野 勲	
	助教 倉光 ミナ子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	